

さんのおどり おいせがわ えがわ ほりかわ むす さんけんいりすじ ようすいろ
山王通はかつて笈瀬川と江川、堀川とを結ぶ三間杵筋という用水路で

した。杵というのは水の出入りを調節する水門のことで、三間杵は現在

の山王橋交差点付近にありました。近くに松平康久入道無三の屋敷が

あったことから、この辺りは無三殿あるいは無三戸ともよばれ、これが訛

って「むさんど」となり、橋もむさんど橋とよばれるようになりました。

江戸時代、三間杵には不思議な力があり、ここで願い事をするときよく

かない、願ほどの御礼として三月三日の雛祭りに草もちをお供えした

り、あるいは紙雛を流すと虫歯の痛みがなくなるといわれました。

三間杵の雛祭りの風習はいつしか忘れられてしまいましたが、その代わ

りにむさんど橋で見せると痔が治るという伝説が生まれました。

この伝説は河童の化身であるすっぱんが痔をかみ切ってくれたことに

由来し、むさんど橋から堀川へ白いおもちを投げ入れたり、巨石におも

ちをお供えしたりしたそうです。

時は移り、市電江川線改修工事のときに巨石が掘り出されました。こ

の巨石がむさんどの神様として鹽竈神社で祀られるようになったのは

昭和九年のことで、平成六年には河童姿の石像も建立されています。

また、笈瀬町の神明社にむさんど橋の橋柱が残っていますが、これは鹽

竈神社からむさんどの神様を分祀したときに譲り受けたものです。

神明社の祭殿の前には河童の化身のすっぱんの石像もあります。

神明社（笈瀬町）



しんめいしゃ むさんどの さいでん かっぱ
神明社の無三殿の祭殿。河童の
けしん 化身であるすっぽんの石像が写真
ちゅうおう
中央にあります。

神明社（笈瀬町）



しんめいしゃ とりい よこ
神明社の鳥居の横にはむさんど
はし はしばしら
橋の橋柱があります。

塩竈神社（西日置一丁目）



しおがまじんじゃ かっぱ せきぞう うし
塩竈神社の河童の石像。後ろには
きよせき おさ せきしつ
巨石を納めた石室があります。